

国際化学肥料ニュース (2013年10月号)

肥料業界の2013年10月動態

- * 10月2日アメリカ Mosaic 社はアメリカミネソタ州に本部がある世界最大のりん酸肥料輸出連盟「PhosChem」が正式に解散すると発表した。PhosChem は Mosaic 社とカナダ Potash Corp 社が北米りん安の輸出を協調するために 39 年前に設立した輸出連盟であり、北米りん酸塩産業の 60%、世界のりん酸肥料貿易量 10%を占める。2013年5月31日までの最新年間売上 13 億ドル。

解散の理由は、①アメリカ国内りん酸肥料生産量が下降している。②カナダ Potash Corp 社が自らりん酸肥料を直接輸出することにより PhosChem 経由の輸出量が減った。③Mosaic 社がサウジアラビアの国営 Maaden 社、Sabic 社と合弁でりん酸塩化学品を生産する等である。Mosaic 社はこれからフロリダではなく、サウジアラビアの合弁会社からりん酸肥料を輸出すると計画している。

- * 中東の湾岸石化・化学協会 (GPCA) の第 4 回大会に公表したデータによれば、湾岸地域の豊富な天然ガスとりん鉱石資源を活用するため、湾岸諸国が窒素肥料とりん酸肥料工業の発展に一層力を入れている。昨年 GPCA 加盟国の化学肥料生産能力が 3140 万トン/年に達し、尿素生産量が世界生産量の 16%、貿易量の 30%までに成長した。

現在、湾岸諸国の建設中または計画中の肥料生産設備への投資額が 100 億ドルを超え、2018 年に化学肥料生産能力が 4640 万トン/年に達する予定。

- * カナダ 1～8月の塩化加里輸出量が 1160 万トン、昨年同期の 1000 万トンより 16%増。特に 1～5月の輸出量が急増したが、6～8月に急ブレーキがかかって、特にロシア Uralkali 社が BPC を離脱した 8月の輸出量が 90.8 万トン、昨年同期より 5.6%減であった。

- * 中国のりん安肥料輸出可能の非需要期は 10月15日に終了した。今年の非需要期に DAP 輸出数量 (契約数量) 約 240 万トン、保税区に保管されている数量を足しても 300 万トンに達しないことがほぼ確定した。昨年の DAP 輸出量 393 万トンに比べ、約 40%減少した。

また、輸出価格も5月のFOB510ドル/トンから10月の370ドル/トンに約38%も下落した。

* 中国政府は国内尿素産業の急膨張した生産能力と過剰在庫の削減を支援するため、来年1月から尿素の需要期と非需要期の区分を撤廃し、年間10%の輸出関税に統一するか、または現在の4か月の非需要期をさらに2ヶ月延長して、年2回にするかについて検討している噂である。

* パキスタン政府は化学肥料の国内販売と輸入政策を調整する。主な改正点は現在、肥料メーカーと輸入商社に補助金を出して、化学肥料価格を抑えるいわゆる間接補助政策を改め、直接に農家に肥料助成金を与えることを検討する。

* アメリカ肥料研究所(TFI)のデータによれば、9月末現在塩化加里在庫量が先月より1%増、前年同期より15%増。りん安(MAP+DAP)在庫量が先月より4%減、前年同期より53%増。DAP在庫量が先月より11%減、前年同期より29%増。

* インド新聞10月23日の報道によれば、インド政府は民間企業が国際市場から尿素を輸入することを禁止する法令を解除する予定。今まで、尿素の輸入業務はMMTC、IPL、STCの3社国営企業に指定され、民間企業が輸入したい場合はこの3社に依頼して、代行輸入しかない。

インドの尿素年間需要量が3000万トンを超えたが、国内生産量が2200万トン、不足分の800万トンを入力に依存する。また、政府は国内の尿素販売価格を5310ルピー(約86.5ドル)/トンに統制して、2013~2014年に政府予算から6600億ルピーの巨額補助金を計上する。

* 10月28日、アメリカのMosaic社は同業者CF Industries Holdings (CF)社のりん酸肥料業務を買収すると発表した。買収金額12億ドル。

CF社のりん酸業務は、South Pasture りん鉱山と精製工場、それを原料とするりん安工場、アンモニア輸入設備および関連備蓄施設等、すべてフロリダ州にあり、生産能力はDAPとMAP180万トン/年である。同時にCF社は当該業務のりん安の生産原料として、毎年100万トンアンモニアをMosaic社に提供する約束。

Mosaic社はこの買収により、自社のりん酸肥料生産量が1000万トン/年に達する。また、ルイジアナ州に予定するアンモニア工場の新設計画を撤回して、11億ドルの投資を節約できる。

- * ブラジル税関の発表によれば、今年1～9月、ブラジルの塩化加里輸入量が593.4万トンに達し、昨年同期より1.4%増。輸入元の内訳は、カナダ210万トン、BPC 169.9万トン、K+S 96万トン、ICL 80.5万トン、SQM 37.2万トンであった。
- * ロシア Uralkali 社は11月にマレーシアとインドネシアに2.5万トン塩化加里を輸出した。CFR 価格は320ドル/トン未満と言われた。

大手各社の営業業績

- * カナダ Potash Corp 社は、ロシア Uralkali 社が BPC を脱退することにより、加里肥料の価格が下落し、加里肥料各社の今年第3四半期純利益が45%減少するだろうと発表した。これに伴い、Potash Corp 社は2013年純利益の予想を1株当たり2.70ドルから2.20ドルに引き下げる。
- * アメリカ Mosaic 社は今年第3四半期の業績を公表した。昨年同期に比べて、売上高が28%減の19.1億ドル、純利益は70%減の1.24億ドルであった。内訳はりん酸系肥料の販売量が270万トン、売上高14億ドル、加里肥料の販売量140万トン、売上高5.23億ドルであった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * コンゴ政府の発表によれば、コンゴ政府は南アフリカ政府との間に化学肥料工場の建設に関する覚書を締結した。2014年6月着工、投資額3900万ドル、南アフリカ側が70%、コンゴ側が30%の内容である。

その他

- * ロシアからの報道によれば、今年7～9月の第3四半期に Uralkali 社が塩化加里を前年同期より5%増の270万トン生産した。なお、1～9月の塩化加里生産量が720万トンで、前年同期より2.7%減であった。第3四半期の生産量増加の理由は、BPC から離脱して、塩化加里の輸出価格を自由に設定することである。7月以降、インド向けの塩化加里 FOB 価格が平均で375ドル/トン、値下げ幅12%である。また、ブラジル向けの塩化加里も7.44%値下げした。
- * 10月18日、ベラルーシ政府は逮捕した Uralkali 社 CEO Vladislav Baumgertner 氏の罪を職権乱用から公金横領に変更した。この罪が成立すれば、最大12年懲役になる。現在、Baumgertner 氏は保釈され、ベラルーシに軟禁されている。

ベラルーシ大統領は 18 日に談話を発表し、ロシアとの間に BPC を再建する希望を表明した。また、ロシア側が BPC 再加盟に関する協議に参加すれば、Baumgartner 氏をロシア側に引渡し、ロシアで公正な裁判を行うこともあり得る。

- * 10 月 24 日、ロシアのプーチン大統領がベラルーシのルカチェンコ大統領と会談した。双方は BPC に関して論議を行い、双方の争いを速やかに平和的に解決することに一致した模様。
- * 中国の窒素化学肥料業界が厳しい局面に臨んでいる。全産業の今年 1～8 月利益 33.02 億人民元、昨年同期より 64.5%減少した。販売利益率が昨年同期より 3.23%低い 1.78%しかなく、赤字企業も多数出現する。今年下期に計画通りに 500 万トンの尿素新設生産能力が完成し、生産開始とすれば、年間尿素生産量が 6500 万トンに達する。国内需要量 5000 万トン、輸出 700 万トンと仮定しても、300 万トンの処分が必要となる。窒素肥料業界はしばらく低空飛行を続ける。
- * ヨーロッパに開かれた FMB 会議において、ベラルーシ加里の Oleg Petrov 氏（販売部門マネージャー）は塩化加里の国際価格低下に関する考えとベラルーシ加里の立場を紹介した。塩化加里の価格低下の原因は需給不均衡により引き起こしたもので、2002～2011 年の 10 年間に塩化加里生産能力が年率 3.1%増加したので、需要量が年率 2～3%しか増えていなかった。従って、2012 年 4 月から塩化加里の価格低下が始まった。ただし、価格低下により、加里肥料の使用量が上昇する傾向があり、長期的に 300 ドル/トン以下に継続することが不可能である。また、FOB300 ドル/トンはベラルーシ加里が受入れすることができる最低の価格である。
- * ロシアのロシア通信社は、ロシア側の調査委員会はすでにベラルーシ政府に Uralkali 社 CEO Vladislav Baumgartner 氏をロシアに引渡すように要請したと報道した。今年 8 月、ベラルーシは Vladislav Baumgartner 氏を公金横領と職務乱用の罪で逮捕した。10 月 24 日、ロシアプーチン大統領がベラルーシルカチェンコ大統領と会談した際に Vladislav Baumgartner 氏をロシア国内で審理するように要請した。